

ネパールプロジェクトより

縫製指導などの目的で4月にスタッフや指導者が現地を訪問します。その様子は5月発行のネパールニュースにてご報告する予定です。

■自立会のブログができました

「TIFA 自立会」で検索してください。カトマンズ近郊の農村サクー村の女性達のトレーニングの様子や、山の小学校での教育・給食支援の様子を載せています。今後、新しい情報や写真を増やして行きます。

■手作り品を販売しています

TIFAは20年間、ネパール農村部の女性の自立支援を行ってきました。その過程で現地でトレーニングを受けた女性たちの手作り品を日本で販売して自立を助ける活動が徐々に形になりつつあります。ドダウリ村やサクー村で作っている衣類、ダカ織り、ニット製品、縫製品



(バッグやクッションカバー)など。みな素朴で温かみにあふれた品々です。カフェサパナで展示販売中。インターネットの通信販売も近々取り入れる予定です。

ニットチームのリーダー、パンチ・マヤさん

入会のご案内

入会方法等詳しくは事務局にお問い合わせください。

■正会員…入会金2000円 年会費6000円(月500円)

TIFAで実際に活動を行う会員です。新しい活動をした方も歓迎します。

■賛助会員…年会費 一口3000円

TIFAの活動を資金面で支援していただく会員です。ニュースレター等で報告をお送りします。

■ネパールプロジェクト後援会員

TIFAのネパールでの活動を支援していただく会員です。定期的に現地の様子をお知らせします。

第7回 TIFA 国際子どもキャンプ 2013

開催日が決まりました。

日時：8月21日(水)～23日(金)

場所：豊中市立青少年自然の家「わっぱる」

対象：小学4年生～中学3年生 80人

今年も外国人リーダーと一緒に世界の遊びや歌、言葉などを体験しましょう。

お問合せはTIFA事務局まで(06-6840-1014)

留学生と家族ぐるみで交流しませんか？

TIFAでは毎年春と秋に、来日したばかりの外国人留学生のホストファミリーを募集しています。寮に住む留学生に日本の家庭を体験してもらうプログラムです。ご興味のある方は事務局にご連絡ください。(宿泊はともないません)

参加者募集中！

お申込み・お問合せはTIFA事務局まで。いずれも体験参加できます。(お問合せ 電話・FAX: 06-6840-1014)

<国際交流のための英会話クラス>

とよなか国際交流センターにて(月4回 5000円)

●レッツコミュニケーション

毎週火曜 中級:9:30～10:40 初級:10:50～12:00

●元気の出る英会話

毎週木曜 初級:9:30～10:40 中級:10:50～12:00

<外国人のための日本語クラス>

●TIFAにほんご講座

毎週月曜 10:00～12:00 すてっぶ(豊中駅隣接)にて

●ナイト漢字クラス

毎週火曜 19:30～21:00 とよなか国際交流センターにて

●にほんご交流サロン

毎週金曜 19:30～21:00 とよなか国際交流センターにて

発行：特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

TIFA(国際交流の会とよなか)は、豊中市にて1985年11月に発足しました。メンバーと地域に住む外国人が協力し、言葉や文化、国籍が異なる人たちがともに生きやすい社会の実現を目指して活動しています。

事務局 〒560-0021 大阪府豊中市本町3-3-3

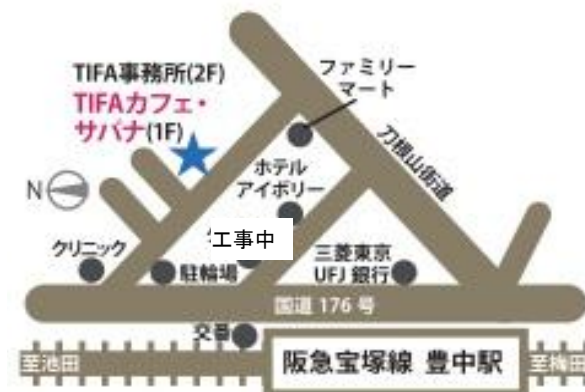
Tel/Fax: 06-6840-1014

E-mail: tifa99@nifty.ne.jp

お問合せ・お申込みは 月～金曜 09:30～17:00

ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/tifa/>

最新のイベント情報はホームページをご覧ください



豊中駅北口から徒歩約5分

エトレ豊中 すてっぶ(5F)
とよなか国際交流センター(6F)



TIFA カフェ・サパナは、おかげさまで1周年を迎えました。まだまだ試行錯誤の日々ですが、地域に住む外国人とともに元気に運営しています。これからも応援をよろしくお願いいたします。TIFAには多様な国際交流・国際協力活動があります。世界とつながる市民活動にかかわってみたい方、ぜひ一緒に活動しましょう！

カフェ・サパナよりごあいさつ



TIFA カフェサパナをご利用の皆さま、いつもありがとうございます。おかげさまでサパナも無事1周年を迎えることができました。これもひとえにサパナを愛する皆さまのあたたかいご声援があったからこそと感謝しています。

初めての経験の中、いろいろな制限や未熟さゆえ十分に機能できずご迷惑をかけたことも多々ありましたが、外国人シェフに限らずイベントでその国の話をしてくださる外国人とのふれあいなど、サパナは確実に世界とつながる空間として歩んでいると実感しています。毎日のランチを作っている外国人シェフは回を重ねるごとにプロ意識もめばえ、料理だけでなくお客様の接客など真摯に取り組んでいます。客数が少なくがっかりする日もありますが、毎日の積み重ねがまた新たな喜びにつながると思いつつ日々頑張っています。これからも新たな国の発掘やレシピの改善、ホームページの充実など努力していきたいと思っています。これからも皆さまのご愛顧よろしくお願いいたします。(安本)



1年間で40人の外国人シェフが登場！

この1年間で、平日のランチのシェフを勤めた外国人は13ヶ国21人。土曜日のイベントも含めると、約40人の外国人がサパナのキッチンに立ったこととなります。料理以外にも、スナックやお菓子を作ってくれる人もいます。また、小さな子を保育所にあずけて頑張って働いているママも数人います。

「外国人が地元で活躍する場を作る」ことがサパナの重要な目的です。2年目には外国人がより主体的にサパナを運営していくことを目指します。

アルファフォーレ(ペルーのお菓子)を作ってくれるロサさん



3月末に帰国するディーボンさんからのメッセージ

I was also a member for past one year in TIFA and I feel very proud of that since the other members are very kind and affectionate. TIFA members are giving their utmost care to give their best to their customers. TIFA members and visitors, do come and enjoy in future. Thank you so much to cafe Sapano and its members who gave me a wonderful experience to mingle with so many Japanese people and for their encouragement and support. Thanks again. (Deepam)



この1年間 TIFA(サパナ)の一員として活動できて光栄です。TIFAメンバーは皆とても親切で思いやりがあり、お客様に最善を尽くそうとしています。そんな人たちとともにサパナですばらしい経験ができました。皆さん(南インドに)ぜひ遊びに来て下さいね。応援ありがとうございました。(ディーボン)

TIFA カフェ・サパナ 平日 10時～17時 ランチタイム は 11時半～売切れまで。土曜・日曜はイベントまたは貸スペースとしてご利用いただけます。ランチやイベントの最新情報は、事務局にお問い合わせいただくか下記をご覧ください。ホームページ: <http://tifacafe.tumblr.com/> フェイスブック: <http://www.facebook.com/tifacafe>

世界と出会う・世界を知る

サパナ サタデースペシャル 1年間の軌跡

サパナでは土曜日（不定期）にスペシャル企画として、いろんな国のお料理を味わいながらお話を聞くイベントを開催しています。この1年間で20人以上の外国人が登場しました。料理の話だけでなく、故郷の驚くようなお話や愉快的パフォーマンスが飛び出すことも。土曜日は男性シェフが多いのも特徴です。1年間のプログラムを振り返ってみましょう。

——2012年——

- 3.17 ローゼルさんのチベットランチとお話
- 3.24 ランディさんのグアテマラ料理とお国の話
- 3.31 手で食べるパティさんちのネパール家庭料理
- 4.7 アイリーンさんのイランの家庭料理
- 4.14 花さんの中国・雲南省の家庭料理とお話
- 4.21 鉄鋼さんのモンゴル料理と本格モンゴル茶
- 4.28 ローゼルさんのチベット料理
- 5.12 ソナムさんのブータンの家庭料理とお話
- 5.26 沖縄タコライス&美ら島・三線のお話
- 6.2 ルクレシアさんのペルーの家庭料理
- 6.9 ロリさんのタイ料理とお話
- 6.23 第2弾！手で食べる本場ネパールの家庭料理
- 6.30 ジェフさんのコロンボとマルチニーク島のお話
- 7.28 ドイツの留学生と交流しよう



- 9.8 本格的なボルシチを食べよう（ベラルーシ）
- 9.22 イマドさんのモロッコ料理とおはなし
- 9.29 ジェフさんのマルチニーク島の料理とお話
- 10.6 パキスタンのイムランさん家族と交流しよう
- 11.10 マルリさんのブラジル家庭料理とお話
- 11.24 イマドさんのモロッコ料理・クスクス
- 12.1 サパナで和食

——2013年——

- 1.13 タイ料理で新年会（ロリさん）
- 1.26 キマさんのネパール料理とお話
- 2.16 ネパールランチとテーブルマジック
- 3.9 王芳さんの中国山東省の家庭料理とお話
- 3.16 イリスさんのスペイン家庭料理
- 3.23 コンラットさんのCanadian Afternoon（カナダ）



TIFA 日本語プログラム

24年度文化庁の「生活者としての外国人のための日本語教育事業」の委託を受けて日本語教室、日本語指導者（主に外国人）養成講座、学習教材の作成をしました。学習教材は、ベテラン日本語教師の岡田勝美さんを中心に強力メンバーで、外国人でも教えやすいパワーポイント教材が出来、解説と多言語版テキストもついています。この教材のことや、日本語教室に参加したい外国の方は、TIFAまでお問い合わせ下さい。



日・タイ青少年交流プログラム～交流の旅

（2013年1月6日～11日シンブリからチェンマイへ）

国立中高一貫シンブリ校とTIFAとのボランティア教師派遣を通じての交流は9年を迎える。シンブリ校日本語クラスに学ぶ学生の意欲に押され、彼らにより真の日本を知ってもらいたいという思いで、青少年交流のイベントを企画するようになった。形態を変え、キャンプを取り入れ、寝食を共にし、親交を深める青少年交流は3回目になるが、参加者が、各自の体験を通して、自分をそして日本を考える機会となった。

今回は、会員6名と学生6名の12名でタイを訪問。シンブリ側は学校行事としてわれわれを迎え、チェンマイへの旅は、普段着のタイを知る、格別に味ある旅となった。学生は前回からの参加者で、かれらの旧交をあたためる場となった。

ショッピングモールを訪ねた時、「～便利な社会はあたたかい素朴な人と人のつながりを分断する機能があるように感じる。」と。シンブリでのホームステイ先でのバイクに乗った時、「かなり自由で雑多な交通環境でうらやましく思う。対して日本は法規制が整いすぎ、その多さに窮屈さを感じ、公共の福祉を念頭に置いてとは言え、法律の多さに日本は不幸を感じる。」と。

以上の学生の感想文の一部からも、外国の地で体感し、考える習慣が国際感覚を磨いて行くのだと思う。次世代への期待がふくらむ。（島本）



ワールドクッカーリー

2月14日（木）10:30～14:00 くらしかん料理室にて、スヒョンさんが講師を務める「韓国の家庭料理とお話」を開催しました。2月10日は韓国の旧正月ということで、参加者15名ゲスト1名でそれにちなんでお祝い料理の九折坂（クジヨルパン）とトックツ（餅のスープ）を作りました。

9つに区切られた九折坂用の入れ物に彩りよく盛り付けられた料理とトックツをいただき、韓国のお正月や食べ物についての話を聞きながら、和気あいの時間を過ごしました。

（石墨）



TIFA セミナー

ドイツの原発ゼロへの歩み～映画『シェーナウの想い』&オステンさんのお話

2月24日（日）とよなか国際交流センターにて開催。予想を上回る80人以上の参加がありました。

まずシェーナウの市民が子どもたちのために自然エネルギー社会をと立ち上がった記録映画「シェーナウの想い」を鑑賞し、その後ドイツ大使館・総領事館一等書記官のベアーテ・オステンさんと研修生のシュレーマーさんからこの映画の背景、ドイツのエネルギーシフトの現状や展望などについてお話をうかがいました。

福島原発事故後すぐにドイツが原発ゼロを宣言できたのは長年の環境への取り組み、チェルノブイリ以来の脱原発市民運動の力、そしてメルケル首相の物理学者としての判断などがあったということや、ドイツも日本も原発がなくても自然エネルギーの開発で経済はやっていけると強調されました。

原発ゼロの目標が揺らいでいる日本ですが、多くの参加者から「とてもいい内容だった」「映画に感動した」「元氣と勇氣が湧いた」という声をいただき私たち市民一人一人が粘り強く働きかけていかなければならないと強く感じました。（上田）



<参加者の感想より>

*ドイツが脱原発宣言をするようになるには根強い市民の運動があったことを知りました。簡単にできた訳ではなかったですね。市民が電力網を買い取ったことも驚きです。

*10年かかったシェーナウの人々の活動は感動的でした。仕組みをつくり動かしていく、コブシを振り上げるだけでなく、楽しくアイデアあふれる催しの数々。学ぶことの多い10年の動きでした。

多文化子育てサロン

11月15日はアップルケーキとアーモンドフロランタン作り、12月6日は干支の切り絵、12月20日は年末恒例ポトラックパーティーを行いました。続いて年明けの1月17日おもちつき、2月7日は親子でダンス、21日はひなまつりにちなんで花寿司作りをしました。

多文化子育てサロンは、毎月第1・第3木曜日の午前中に、外国人親子を対象として開催しています。料理やダンスの指導といった会員の皆様のご協力もあり、毎回10組弱の外国人親子と5、6人のスタッフが季節ごとの行事や料理をみんなで楽しんでいます。（井上）



グローバルサロン

「ビルマの過去・現在・未来～ビルマの真実にふれる～」
3月10日（日）とよなか国際交流センターにて開催

日本在住のビルマ難民マウンマウンさんと、日本ビルマ救援センター代表の中尾恵子さんからお話を伺いました。

マウンマウンさんは1968年ビルマ・ヤンゴン生まれ。1988年、国軍はクーデターを起こし国権を掌握。学生だったマウンマウンさんは軍事政権を批判し民主化を求めて立ち上がった。しかし軍による冷酷な弾圧のため2001年来日。名古屋と大阪の入国管理センターに1年6ヶ月収容された。日本での難民認定は困難を極め、やっとの思いで2005年に認定され、現在は車の整備士として働いている。



ビルマの民主化は都市部のビルマ民族に限られている。タイとの国境に少数民族の難民キャンプが12箇所あり15万人が暮らしている。ビルマ軍事政権による少数民族への迫害は、強制労働、村の焼き討ち、強制移住、略奪、レイプ、少年兵の徴集など、数えきれない。中尾さんはメソードにあるキャンプに年2回、支援物資100kgを仲間5人で運んでいる。（バレーボール、クレヨン、絵の具、ピアニカなど）メソードではゴミ置場に小屋を建て劣悪な生活環境の中くらししている。ゴミの山の上で出産し、生まれた子どもは無国籍という現実。中尾さんはそのような子どもたちに教育が保障されるよう活動されている。一人の少女は「タイで学校の先生になりたい」と希望を見出している。

ビルマの急速な改革で国内への支援が活発になり、少数民族の難民キャンプは資金難に陥っている。ビルマの人々はこれからも大局的かつ現実的に判断できるアウンサンスーチー氏が真の民主化を行うことを期待している。

中尾さんの望みは「少数民族の子どもたちが幸せになること」ビルマへの熱いおもいにあふれていた。（田坂）